

スポーツ整形外科

科目責任者 種 市 洋（整形外科学）

I. 前 文

スポーツによる傷害には、脱臼や骨折などの外傷と投球障害肩や野球肘などのオーバーユースに伴う障害があり、治療には疾患の知識とともに競技特性を理解する必要があります。この科目では、スポーツ整形外科について、病態・診断・治療からスポーツ復帰までをできるだけ平易に解説することで、スポーツ整形外科に興味を持ってもらおうと共にスポーツ障害への理解を深めてもらうことを目標としています。

II. 受入可能人数

人数制限はしない

III. 担当教員

瓜 田 淳（整形外科学）、山 口 雄 史（整形外科学）

IV. 学習内容

<授業の具体的な進め方>

この講義では、スポーツ整形外科における外傷や障害について、解剖学的な知識から治療・競技復帰までを系統立てて講義することで理解してもらいます。講義は基本的にはスライドを用いて行います。また、内容を理解してもらえるように動画を用いるなどわかりやすく説明しながら講義を進め、各講義の最後には確認のための小テストを行い理解度を確認する予定です。

<授業内容>

第1週 インTRODクシヨN：スポーツ整形外科について

第2週 上肢のスポーツ外傷・障害①：肩関節

第3週 上肢のスポーツ外傷・障害②：肘関節

第4週 下肢のスポーツ外傷・障害①：膝関節

第5週 下肢のスポーツ外傷・障害②：股関節、足関節

第6週 期末試験

V. 学修の到達目標

スポーツ障害について理解を深め、代表的な疾患の診断法と治療法について具体的に説明することができる。

VI. 成績評価の方法・基準

各講義で行う小テストおよび期末試験で総合的に判断する。4回以上出席しないと評価の対象としない。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

講義では教科書・教材は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布します。

VIII. 質問への対応方法

対応者：瓜田 淳

メールアドレス：a-urita@dokkyomed.ac.jp 電話：0282-87-2161（整形外科学教室）

メールや電話で予約を取ってから質問や相談に応じます。

IX. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間

事前学習は特に必要ありません。各講義でプリントを随時配布します。このプリントを用いて20分程度の事後学習(復習)を行うことで知識を整理してもらいます。

X. コアカリ記号・番号

D-4-1), D-4-2), D-4-3), D-4-4)

XI. 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法

小テストや試験は授業内で回答して理解度が低い内容については解説して理解度を深めてもらいます。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎: 最も重点を置く DP ○: 重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術(ICT)などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	